

鹿児島県地震等災害被害予測調査検討有識者会議（第6回）

その他被害等の想定結果

<想定地震>

- | | |
|----------|---------------|
| ①鹿児島湾直下 | ⑦南海トラフ |
| ②県西部直下 | ⑧種子島東方沖 |
| ③甕島列島東方沖 | ⑨トカラ列島太平洋沖 |
| ④県北西部直下 | ⑩奄美群島太平洋沖（北部） |
| ⑤熊本県南部 | ⑪奄美群島太平洋沖（南部） |
| ⑥県北部直下 | |

令和8年10月28日

1. 被害想定予測手法の基本的な考え方

- 検討委員会の意見を踏まえ、**最新の科学的知見、手法等を反映**する。
 - 令和7年3月31日に公表された「南海トラフ巨大地震モデル・被害想定手法検討会」等の最新の知見を加味した想定を行うものとする。
 - 既往の国、都道府県による地震被害想定調査の手法を参考に必要に応じて更新する。
 - 平成28年熊本地震、令和6年能登半島地震等、近年国内で発生した地震の被害状況等の知見を反映する。
- 基本的な想定単位は250mメッシュとし、項目によって、市・区・地域等、個別(箇所別)等の単位で想定を行う。

2. 被害予測手法の変更点まとめ

※前回調査との変更点は赤字で記載

		前回調査手法	今回調査手法
その他 被害	エレベータ内閉じ込め	中央防災会議(2013)より算定	変更なし ※各種係数は最新のものに更新
	長周期地震動	—	定性評価
	孤立集落	中央防災会議(2013)より算定	変更なし
	細街路道路閉塞	—	幅員別道路延長と建物被災率に応じた閉塞率より算定
	道路上の自動車への落石・崩土	—	定性評価
	交通人的被害(道路・鉄道)	—	定性評価
	要配慮者	—	避難者と災害時要援護者の人口比率を乗じて算定
	宅地造成地	—	※地震動・液状化の評価に考慮
	危険物施設等	—	各施設におけるハザードリスクを評価
	大規模集客施設等	—	定性評価
	地下街・主要駅等	—	定性評価
	文化財	—	各文化財におけるハザードリスクを評価
	災害応急対策等	—	定性評価
	堰堤・ため池等の決壊	—	定性評価
	地盤地下による長期湛水	—	定性評価
	複合災害	—	定性評価 ※特に風水害について検討
	漁船・船舶・水産関連施設	—	定性評価 ※養殖業についても検討
	治安	—	定性評価
	観光	—	死傷者数における観光客数を算定
	農畜産業	—	各施設におけるハザードリスクを評価
経済被害	直接経済被害	中央防災会議(2013)より算定	変更なし ※原単位は最新のものに更新

3. その他被害の想定結果 ①エレベータ内閉じ込め

※ -:わずか(0は完全に0)
 ※ 被害想定の数値は概数であるため、ある程度幅をもって見る必要がある。また、四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

その他被害:エレベータ被害の一覧

今回調査

被災ケース		閉じ込めにつながるエレベータ停止台数(台)	エレベータ閉じ込め者数(人)
想定地震等	季節・時刻		
①鹿児島湾直下	冬深夜	130	60
	夏12時	130	280
	冬18時	130	300
②県西部直下	冬深夜	40	20
	夏12時	40	90
	冬18時	40	90
③甕島列島東方沖	冬深夜	10	-
	夏12時	10	20
	冬18時	10	20
④県北西部直下	冬深夜	-	-
	夏12時	-	10
	冬18時	-	10
⑤熊本県南部	冬深夜	-	-
	夏12時	-	10
	冬18時	-	10
⑥県北部直下	冬深夜	-	-
	夏12時	-	10
	冬18時	-	10
⑦南海トラフ (地震動:基本ケース、津波:CASE11)	冬深夜	120	50
	夏12時	120	260
	冬18時	120	270
⑦南海トラフ (地震動:東側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	90	40
	夏12時	90	190
	冬18時	90	200
⑦南海トラフ (地震動:西側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	160	70
	夏12時	160	340
	冬18時	160	360
⑦南海トラフ (地震動:陸側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	130	60
	夏12時	130	280
	冬18時	130	290
⑧種子島東方沖	冬深夜	130	50
	夏12時	130	270
	冬18時	130	280
⑨トカラ列島太平洋沖	冬深夜	10	-
	夏12時	10	20
	冬18時	10	20
⑩奄美群島太平洋沖(北部)	冬深夜	10	-
	夏12時	10	20
	冬18時	10	30
⑪奄美群島太平洋沖(南部)	冬深夜	10	-
	夏12時	10	20
	冬18時	10	20

前回調査

被災ケース		閉じ込めにつながるエレベータ停止台数(台)	エレベータ閉じ込め者数(人)
想定地震等	季節・時刻		
①鹿児島湾直下	冬深夜	650	30
	夏12時	650	150
	冬18時	680	140
②県西部直下	冬深夜	90	-
	夏12時	90	20
	冬18時	90	20
③甕島列島東方沖	冬深夜	20	-
	夏12時	20	-
	冬18時	20	-
④県北西部直下	冬深夜	10	-
	夏12時	10	-
	冬18時	10	-
⑤熊本県南部	冬深夜	-	-
	夏12時	-	-
	冬18時	-	-
⑥県北部直下	冬深夜	-	-
	夏12時	-	-
	冬18時	-	-
⑦南海トラフ (地震動:基本ケース、津波:CASE11)	冬深夜	100	-
	夏12時	100	20
	冬18時	100	20
⑦南海トラフ (地震動:東側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	20	-
	夏12時	20	-
	冬18時	20	-
⑦南海トラフ (地震動:西側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	150	10
	夏12時	150	30
	冬18時	150	30
⑦南海トラフ (地震動:陸側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	110	-
	夏12時	110	20
	冬18時	110	20
⑧種子島東方沖	冬深夜	240	10
	夏12時	240	50
	冬18時	240	50
⑨トカラ列島太平洋沖	冬深夜	10	-
	夏12時	10	-
	冬18時	10	-
⑩奄美群島太平洋沖(北部)	冬深夜	60	-
	夏12時	60	10
	冬18時	60	10
⑪奄美群島太平洋沖(南部)	冬深夜	20	-
	夏12時	20	-
	冬18時	20	-

- エレベータ被害が最大となるのは、⑦南海トラフ巨大地震(西側ケース・CASE11)であった。
- 閉じ込めにつながるエレベータ停止台数は前回調査とほぼ同様の規模であるが、閉じ込め者数は増加している。これはエレベータ内滞留人口の設定の差によるものである。

3. その他被害の想定結果 ②長周期地震動

	発災直後～3日後	～1週間後	～1か月後	1か月後～
高層建築物の被害	- 高層建築物では上層階を中心に大きな揺れが発生し、内装材や天井材、設備機器等の被害が発生する。 - 建物によってはエキスパンションジョイント等の損傷が発生し、一時的に立入制限が行われる。 - 安全性確認が完了するまでオフィスや商業施設の利用が制限される。	- 建築技術者による安全確認が継続し、一部施設では利用再開が遅れる。 - 非構造部材の補修や落下物の撤去作業が進められる。 - 高層オフィスを中心に業務機能の一部停止が継続する。	- 被害の大きい建築物では補修工事が継続する。 - テナント企業の一時移転等により地域経済活動への影響が生じる。	- 建築物の復旧が進む一方、耐震化や非構造部材対策の必要性が改めて認識される。 - 建物管理者による防災計画等の見直しが進められる。
高層住宅の居住者	- エレベーター停止により高層階居住者の移動が困難となる。 - 停電や断水が発生した場合、高層階での日常生活に大きな支障が生じる。 - 高齢者や要配慮者の支援需要が増加する。 - 上層階では揺れによる転倒や落下物による受傷が増加する。 - めまい、吐き気等を訴える者が発生する。	- エレベーターの復旧が遅れる建物では高層階住民の生活負担が継続する。 - 飲料水や生活物資の搬送が課題となる。 - 在宅療養者や高齢者の健康状態悪化が懸念される。	- 長期間の生活制約により身体的・精神的負担が蓄積する。 - 一時的な転居や避難生活への移行が生じる場合がある。	- 一部住民において生活再建や住宅復旧に伴う負担が継続する。 - 高層住宅における防災対策強化への関心が高まる。
一斉避難・混雑等	- 高層建築物利用者の一斉避難により、非常階段や避難経路に混雑が発生する。 - 転倒や将棋倒し等の二次被害の発生が懸念される。 - 駅周辺や繁華街では帰宅困難者が発生する。	建物安全確認のため立入制限が継続し、利用者の行動制約が続く。	一部施設では利用制限が継続する。	避難誘導計画やBCPの見直しが進む。

3. その他被害の想定結果 ③孤立集落

※ -:わずか(0は完全に0)
 ※ 被害想定の数値は概数であるため、ある程度幅をもって見る必要がある。また、四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

その他被害:孤立集落の一覧

今回調査

被災ケース 想定地震等	農業集落		漁業集落	
	孤立に至る条件に該当する集落数	孤立する可能性のある集落数	孤立に至る条件に該当する集落数	孤立する可能性のある集落数
①鹿児島湾直下	258	7	4	0
②県西部直下	258	7	4	0
③甬島列島東方沖	258	7	4	0
④県北西部直下	258	8	4	1
⑤熊本県南部	258	7	4	0
⑥県北部直下	258	8	4	1
⑦南海トラフ (地震動:基本ケース、津波:CASE11)	258	7	4	1
⑦南海トラフ (地震動:東側ケース、津波:CASE11)	258	7	4	1
⑦南海トラフ (地震動:西側ケース、津波:CASE11)	258	7	4	1
⑦南海トラフ (地震動:陸側ケース、津波:CASE11)	258	7	4	1
⑧種子島東方沖	258	7	4	1
⑨トカラ列島太平洋沖	258	7	4	1
⑩奄美群島太平洋沖(北部)	258	7	4	1
⑪奄美群島太平洋沖(南部)	258	7	4	1

前回調査

被災ケース 想定地震等	農業集落		漁業集落	
	孤立に至る条件に該当する集落数	孤立する可能性のある集落数	孤立に至る条件に該当する集落数	孤立する可能性のある集落数
①鹿児島湾直下	174	1	38	2
②県西部直下	174	2	38	1
③甬島列島東方沖	174	1	38	1
④県北西部直下	174	0	38	1
⑤熊本県南部	174	1	38	3
⑥県北部直下	174	0	38	0
⑦南海トラフ (地震動:基本ケース、津波:CASE11)	174	27	38	11
⑦南海トラフ (地震動:東側ケース、津波:CASE11)	174	27	38	11
⑦南海トラフ (地震動:西側ケース、津波:CASE11)	174	27	38	11
⑦南海トラフ (地震動:陸側ケース、津波:CASE11)	174	27	38	11
⑧種子島東方沖	174	19	38	7
⑨トカラ列島太平洋沖	174	26	38	8
⑩奄美群島太平洋沖(北部)	174	33	38	9
⑪奄美群島太平洋沖(南部)	174	35	38	9

- 県調査(「鹿児島県における孤立化するおそれのある集落に関する状況調査」)の結果にて、孤立する可能性がある集落を対象として算出した。
 - ②県西部直下地震及び④県北西部直下地震で孤立する可能性がある集落数が最も多くなるものの、他地震と比較して大きな差は見られない。
- ※本州に位置する集落については、隣接する集落へのアクセス可能な道路が1本もない場合に孤立、離島に位置する集落については、離島における港湾が被害を受けている場合に孤立として判定した。結果として、本州における孤立集落はほとんど発生しておらず、多くは離島において孤立集落が発生する結果となった。

3. その他被害の想定結果 ④細街路道路閉塞

※ -:わずか(0は完全に0)
 ※ 被害想定の数値は概数であるため、ある程度幅をもって見る必要がある。また、四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

その他被害:細街路道路閉塞の一覧

今回調査

前回調査

被災ケース 想定地震等	細街路の閉塞可能性			
	かなり低い	低い	やや高い	高い
①鹿児島湾直下	88.1%	11.1%	0.3%	0.6%
②県西部直下	89.5%	8.8%	0.4%	1.3%
③甕島列島東方沖	97.2%	2.6%	0.1%	0.1%
④県北西部直下	94.8%	4.5%	0.2%	0.5%
⑤熊本県南部	96.6%	3.2%	0.1%	0.1%
⑥県北部直下	99.4%	0.6%	0.0%	0.0%
⑦南海トラフ (地震動:基本ケース、津波:CASE11)	80.4%	19.0%	0.2%	0.3%
⑦南海トラフ (地震動:東側ケース、津波:CASE11)	77.4%	22.0%	0.3%	0.4%
⑦南海トラフ (地震動:西側ケース、津波:CASE11)	85.5%	14.2%	0.1%	0.2%
⑦南海トラフ (地震動:陸側ケース、津波:CASE11)	76.0%	23.3%	0.3%	0.4%
⑧種子島東方沖	75.4%	23.3%	0.4%	0.8%
⑨トカラ列島太平洋沖	97.5%	2.5%	0.0%	0.0%
⑩奄美群島太平洋沖(北部)	98.1%	1.6%	0.1%	0.2%
⑪奄美群島太平洋沖(南部)	97.4%	2.5%	0.0%	0.1%

算定なし

※メッシュ別に算出した道路リンク閉塞率を基に、対象メッシュ総数に対する各閉塞率区分の割合を確認した。
 ※閉塞可能性は、高い(閉塞率20%以上)、やや高い(閉塞率15%以上20%未満)、低い(閉塞率15%未満)、かなり低い(閉塞率0%)として判定した。

- ②県西部直下地震では、他地震と比較して閉塞可能性が高い(閉塞率20%以上)メッシュの存在割合が高い。建物の全半壊棟数が多く、建物被災率が高いためと考えられる。

3. その他被害の想定結果

⑤道路上の自動車への落石・崩土 ⑥交通人的被害(道路・鉄道)

	発災直後～3日後	～1週間後	～1か月後	1か月後～
道路上の自動車への落石・崩土	- 地震に伴う落石・崩土により、走行中の自動車やバス等が被災し、死傷者が発生する。 - 山間部や海岸沿いの道路では複数箇所では斜面崩壊が発生し、車両の埋没や閉じ込め事案が発生する。 - 被災車両や行方不明車両の捜索が必要となり、消防、自衛隊、警察等による救助活動が実施される。 - 土砂災害の危険が継続するため、救助隊員や道路管理者にも二次災害のリスクが生じる。 - 道路寸断により、山間部や離島部の一部地域では物資輸送や緊急搬送が困難となる。	- 埋没車両や行方不明者の捜索活動が継続される。 - 専門技術者による斜面の安全点検や応急対策工事が進められる。 - 通行止め区間が広範囲に及ぶ場合、迂回路への交通集中や物流の停滞が発生する。 - 孤立した集落では、物資輸送や住民支援のための代替輸送手段の確保が必要となる。 - 救助・復旧作業中の余震により、新たな落石・崩土が発生するおそれがある。	- 被災箇所では本格的な斜面对策工事や道路復旧工事が進められる。 - 通行規制が長期化した地域では、通勤・通学や地域経済活動への影響が継続する。 - 観光地や離島へのアクセス低下により、観光産業や地域事業者への影響が生じる。 - 物流の迂回や輸送時間の増加により、地域住民の生活環境に影響が及ぶ。 - 被災経験による不安から、山間部道路等の利用を控える傾向がみられる。	- 復旧工事の進展により交通機能は徐々に回復するが、大規模な斜面崩壊箇所では復旧が長期化する場合がある。 - 防災対策として落石防護施設や法面対策等の強化が進められる。 - 孤立リスクの高い地域では、代替ルートや防災インフラ整備の必要性が改めて認識される。 - 地域住民や道路利用者の防災意識向上、防災教育の充実が求められる。 - 地震時の道路通行規制や情報提供体制について見直しが進められる。
交通人的被害(道路)	- 地震発生時に走行中の車両において、急ブレーキや運転操作ミスによる交通事故が発生する。 - 橋梁部や高架道路では落橋や段差発生に伴う車両事故が発生するおそれがある。 - 津波浸水想定区域では避難の遅れた車両が津波に巻き込まれるおそれがある。 - 信号機の停電や交通管制機能の停止により交通混乱が発生し、交差点を中心に事故リスクが高まる。	- 道路閉塞や交通規制により渋滞が慢性化し、医療機関への搬送や物資輸送に影響が生じる。 - 被災車両の撤去や道路啓開作業が進められる。 - 被災した道路利用者の救助・捜索活動が継続する。 - 通勤・通学手段が制限され、住民生活への影響が拡大する。 - 離島や半島部では代替交通手段の確保が課題となる。	- 一部区間では通行規制が継続し、迂回による移動時間の増加が生じる。 - 物流車両の運行効率低下により事業活動への影響が継続する。 - 観光地へのアクセス低下により観光需要が減少する。 - 被災者の通院や通勤等に支障が残る。	- 道路機能は順次回復するが、大規模被災箇所では復旧工事が長期化する場合がある。 - 橋梁や法面等の耐震対策、防災対策の強化が進められる。 - 緊急輸送道路の強靱化や代替ルート確保の必要性が改めて認識される。
交通人的被害(鉄道)	- 地震動を検知した列車は緊急停止するが、強い揺れにより車内で転倒・負傷する利用者が発生する。 - 列車の運転見合わせにより駅構内に利用者が滞留し、帰宅困難者が発生する。 - 停電により列車内や駅施設に利用者が長時間滞在する可能性がある。	- 線路、トンネル、橋梁等の点検が継続し、多くの区間で運転見合わせや減便が発生する。 - 通勤・通学利用者が道路交通へ転換することで、自動車交通の混雑が増加する。 - 駅利用者や帰宅困難者への対応が継続する。 - 鉄道による物資輸送機能の低下が発生する場合がある。	- 被害の大きい区間では復旧工事が継続し、代行輸送による対応が行われる。 - 利用者の移動手段が制約され、地域経済活動や観光活動への影響が継続する。 - 九州新幹線や幹線鉄道の運行制限により広域交通ネットワークへの影響が残る。	- 鉄道機能は順次回復するが、大規模な構造物被害が発生した区間では長期間の運休となる場合がある。 - 鉄道施設の耐震補強や落下物対策の強化が進められる。 - 駅利用者の避難誘導体制や事業継続計画(BCP)の見直しが進められる。

3. その他被害の想定結果 ⑦要配慮者

※ -:わずか(0は完全に0)
 ※ 被害想定の数値は概数であるため、ある程度幅をもって見る必要がある。また、四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

その他被害:要配慮者数の一覧

今回調査

被災ケース		被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後		
想定地震	季節・時刻	避難者のうち要配慮者	避難所	避難所外	避難者のうち要配慮者	避難所	避難所外	避難者のうち要配慮者	避難所	避難所外
①鹿児島湾直下	冬深夜	12,900	7,800	5,200	19,600	9,800	9,800	15,900	4,800	11,200
	夏12時	12,900	7,800	5,200	19,600	9,800	9,800	16,000	4,800	11,200
	冬18時	13,000	7,800	5,200	19,700	9,800	9,800	16,100	4,800	11,200
②県西部直下	冬深夜	11,700	7,000	4,700	15,400	7,700	7,700	14,200	4,300	10,000
	夏12時	11,700	7,000	4,700	15,400	7,700	7,700	14,200	4,300	10,000
	冬18時	11,800	7,100	4,700	15,400	7,700	7,700	14,300	4,300	10,000
③甌島列島東方沖	冬深夜	920	550	370	1,200	580	580	1,000	310	720
	夏12時	920	550	370	1,200	580	580	1,000	310	720
	冬18時	920	550	370	1,200	580	580	1,000	310	720
④県北西部直下	冬深夜	3,000	1,800	1,200	4,800	2,400	2,400	4,200	1,300	3,000
	夏12時	3,000	1,800	1,200	4,800	2,400	2,400	4,200	1,300	3,000
	冬18時	3,000	1,800	1,200	4,800	2,400	2,400	4,200	1,300	3,000
⑤熊本県南部	冬深夜	820	490	330	1,300	630	630	980	290	690
	夏12時	820	490	330	1,300	630	630	980	290	690
	冬18時	820	490	330	1,300	630	630	990	300	690
⑥県北部直下	冬深夜	110	70	40	120	60	60	110	30	80
	夏12時	110	70	40	120	60	60	110	30	80
	冬18時	110	70	40	120	60	60	110	30	80
⑦南海トラフ (地震動:基本ケース、津波:CASE11)	冬深夜	4,200	2,500	1,700	6,300	3,100	3,100	5,500	1,600	3,800
	夏12時	4,200	2,500	1,700	6,300	3,100	3,100	5,500	1,600	3,800
	冬18時	4,200	2,500	1,700	6,300	3,200	3,200	5,500	1,700	3,900
⑦南海トラフ (地震動:東側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	2,600	1,600	1,000	3,700	1,800	1,800	3,700	1,100	2,600
	夏12時	2,600	1,600	1,000	3,700	1,800	1,800	3,700	1,100	2,600
	冬18時	2,600	1,600	1,000	3,700	1,800	1,800	3,700	1,100	2,600
⑦南海トラフ (地震動:西側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	5,300	3,200	2,100	7,700	3,800	3,800	6,600	2,000	4,600
	夏12時	5,300	3,200	2,100	7,700	3,800	3,800	6,600	2,000	4,600
	冬18時	5,300	3,200	2,100	7,700	3,900	3,900	6,600	2,000	4,600
⑦南海トラフ (地震動:陸側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	5,500	3,300	2,200	8,100	4,100	4,100	7,100	2,100	4,900
	夏12時	5,500	3,300	2,200	8,100	4,100	4,100	7,100	2,100	4,900
	冬18時	5,500	3,300	2,200	8,200	4,100	4,100	7,100	2,100	5,000
⑧種子島東方沖	冬深夜	8,800	5,300	3,500	11,500	5,800	5,800	9,700	2,900	6,800
	夏12時	8,800	5,300	3,500	11,500	5,800	5,800	9,700	2,900	6,800
	冬18時	8,800	5,300	3,500	11,600	5,800	5,800	9,800	2,900	6,900
⑨トカラ列島太平洋沖	冬深夜	340	200	140	530	260	260	510	150	360
	夏12時	340	200	140	530	260	260	510	150	360
	冬18時	340	200	140	530	260	260	510	150	360
⑩奄美群島太平洋沖(北部)	冬深夜	2,300	1,400	910	3,100	1,600	1,600	3,100	930	2,200
	夏12時	2,300	1,400	910	3,100	1,600	1,600	3,100	930	2,200
	冬18時	2,300	1,400	910	3,100	1,600	1,600	3,100	930	2,200
⑪奄美群島太平洋沖(南部)	冬深夜	1,100	660	440	1,400	690	690	1,400	430	1,000
	夏12時	1,100	660	440	1,400	690	690	1,400	430	1,000
	冬18時	1,100	660	440	1,400	690	690	1,400	430	1,000

前回調査

算定なし

- 避難者数における要配慮者数が最大となるのは、避難者数が最大となる①鹿児島湾直下地震であった。
- 要配慮者の対象者は、65歳以上の単身高齢者、5歳未満の乳幼児、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、要介護認定者、難病患者、妊産婦、外国人の9種である。なお、内閣府の設定と同様、幅広い要配慮者を対象に算出するため、重複の除去は行っていない。
- 鹿児島県内においては要配慮者の割合が4割を超える市町村もあり、避難所における対応が重要となる。

3. その他被害の想定結果 ⑧危険物施設等

※ -:わずか(0は完全に0)
 ※ 被害想定の数値は概数であるため、ある程度幅をもって見る必要がある。また、四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

その他被害:危険物施設の一覧

今回調査			
	危険物施設数	被害程度	該当する施設数
①鹿児島湾直下	6	最大震度:6強以上	0
		液状化危険度:5以上	4
		30cm以上の浸水あり	1
②県西部直下	6	最大震度:6強以上	1
		液状化危険度:5以上	4
		30cm以上の浸水あり	2
③甕島列島東方沖	6	最大震度:6強以上	0
		液状化危険度:5以上	1
		30cm以上の浸水あり	2
④県北西部直下	6	最大震度:6強以上	0
		液状化危険度:5以上	0
		30cm以上の浸水あり	2
⑤熊本県南部	6	最大震度:6強以上	0
		液状化危険度:5以上	0
		30cm以上の浸水あり	1
⑥県北部直下	6	最大震度:6強以上	0
		液状化危険度:5以上	0
		30cm以上の浸水あり	1
⑦南海トラフ (地震動:基本ケース、津波:CASE11)	6	最大震度:6強以上	0
		液状化危険度:5以上	3
		30cm以上の浸水あり	2
⑦南海トラフ (地震動:東側ケース、津波:CASE11)	6	最大震度:6強以上	0
		液状化危険度:5以上	0
		30cm以上の浸水あり	2
⑦南海トラフ (地震動:西側ケース、津波:CASE11)	6	最大震度:6強以上	0
		液状化危険度:5以上	1
		30cm以上の浸水あり	2
⑦南海トラフ (地震動:陸側ケース、津波:CASE11)	6	最大震度:6強以上	0
		液状化危険度:5以上	0
		30cm以上の浸水あり	2
⑧種子島東方沖	6	最大震度:6強以上	0
		液状化危険度:5以上	4
		30cm以上の浸水あり	2
⑨トカラ列島太平洋沖	6	最大震度:6強以上	0
		液状化危険度:5以上	0
		30cm以上の浸水あり	1
⑩奄美群島太平洋沖(北部)	6	最大震度:6強以上	0
		液状化危険度:5以上	0
		30cm以上の浸水あり	1
⑪奄美群島太平洋沖(南部)	6	最大震度:6強以上	0
		液状化危険度:5以上	0
		30cm以上の浸水あり	1

前回調査

算定なし

- 鹿児島県内におけるコンビナート施設について、各種ハザードの想定結果を取りまとめた。
- ②県西部直下の地震においては、震度が高く、液状化危険度も高い施設が多数発生している。また、敷地内で30cm以上の津波が想定される施設も2施設発生する。

3. その他被害の想定結果

⑨大規模集客施設等 ⑩地下街・主要駅等

	発災直後～3日後	～1週間後	～1か月後	1か月後～
大規模集客施設	- 大規模な商業施設では、強い揺れにより天井材、照明設備、窓ガラス、商品陳列棚等の非構造部材が落下・転倒し、施設利用者の負傷が発生する。 - アリーナやホール等では、観客や来場者の一斉避難に伴う混雑が発生し、転倒や将棋倒し等の二次被害が懸念される。停電や通信障害により施設内アナウンスや情報提供機能が低下し、利用者の混乱が発生する。 - 沿岸部の施設では津波避難が必要となり、避難誘導や安全確保が課題となる。 - 外国人観光客や県外来訪者への情報伝達が困難となる場合がある。	- 建物や設備の安全確認が継続し、一部施設では営業再開が遅れる。 - 商業施設やイベント施設の休業により、周辺地域の商業活動が停滞する。 - 大規模な主要駅周辺や繁華街などでは帰宅困難者対応や生活支援が継続する。 - 避難所として利用される施設では、避難者受入れに伴う運営負担が増加する。 - 空港や港湾施設の機能低下により観光客の移動に支障が生じる。 - 集客施設周辺では交通集中や渋滞が発生し、物資輸送や救急活動へ影響を及ぼす。	- 被害を受けた施設では設備修繕や内装復旧工事が継続する。 - 大規模イベントや催事の中止・延期により地域経済や観光産業への影響が顕在化する。 - 商業施設の機能低下により、周辺住民の買い物環境に影響が残る。 - 宿泊施設の被災や観光需要の減少により、観光関連事業者の経営に影響が生じる。 - 利用者や従業員を中心に災害時対応や避難行動に関する課題が整理される。	- 多くの施設で営業再開が進むが、大規模な被害を受けた施設では復旧が長期化する場合がある。 - 防災設備、避難誘導体制、事業継続計画(BCP)の見直しが進められる。 - 天井材や設備機器、陳列棚等の耐震対策強化が実施される。 - 津波避難計画や帰宅困難者対応計画の見直しが進められる。 - 大規模な主要駅、繁華街など来訪者の多いエリアでは、防災情報提供体制や多言語対応の強化が図られる。 - クルーズ船寄港時や大型イベント開催時における避難誘導体制の充実が求められる。
地下街・主要駅	- 大規模な主要駅では、天井材、照明設備、ガラス、広告看板等の非構造部材が落下し、利用者が負傷するおそれがある。 - 駅構内や地下駐車場では停電により照明や空調設備が停止し、利用者の避難や安全確認が困難となる。 - 鉄道やバスの運行停止に伴い、駅構内や周辺施設に多数の利用者が滞留する。 - 大規模な主要駅では帰宅困難者や観光客が集中し、一時的な混雑や混乱が発生する。 - 地下駐車場では配管損傷による漏水や設備障害が発生する可能性がある。	- 鉄道施設や駅設備の安全点検が継続し、一部区間では運転見合わせや減便が続く。 - 大規模な主要駅周辺では帰宅困難者対応や情報提供が継続される。 - 高速バスや路線バスへの利用転換により、交通結節点周辺の混雑が発生する。 - 商業施設や駅ナカ店舗の一部で営業停止が続き、地域経済活動へ影響が生じる。 - 停電や設備被害が発生した施設では復旧作業が進められる。 - 観光客の移動制約により宿泊施設や観光施設への影響が拡大する。	- 駅設備や地下空間の復旧工事が進められるが、一部施設では利用制限が継続する。 - 九州新幹線や在来線のダイヤ乱れが解消されても、利用者数の回復には時間を要する。 - 商業施設では売上減少やテナント営業への影響が継続する。 - 交通結節機能の低下により、通勤・通学や広域移動への影響が残る。 - 災害対応で明らかとなった避難誘導計画や情報提供体制の課題が整理される。	- 駅施設や周辺商業施設の機能は順次回復する。 - 大規模な主要駅における帰宅困難者対策、一時滞在施設運営、情報提供体制の見直しが進められる。 - 天井材、ガラス、設備機器等の耐震対策強化が図られる。 - 地下駐車場や地下空間の浸水対策、非常電源対策の強化が進められる。 - 大規模な主要駅を中心とした交通結節機能の強靱化やBCP(事業継続計画)の見直しが進められる。 - 大規模災害時の観光客・外国人来訪者への情報提供体制の充実が求められる。

3. その他被害の想定結果 ⑪文化財

※ -:わずか(0は完全に0)
 ※ 被害想定の数値は概数であるため、ある程度幅をもって見る必要がある。また、四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

その他被害:文化財被害の一覧
 今回調査

	地震動							液状化危険度				土砂災害の危険度ランク		
	震度7	震度6強	震度6弱	震度5強	震度5弱	震度4	震度3以下	極めて高い	高い	低い	かなり低い	大	中	小
①鹿児島湾直下	0	0	1	13	33	26	19	5	1	3	79	0	1	2
②県西部直下	0	0	1	7	25	40	19	1	3	1	83	0	1	1
③甬島列島東方沖	0	0	0	0	4	60	28	0	1	0	87	0	0	2
④県北西部直下	0	0	0	0	5	41	46	0	0	0	88	0	0	2
⑤熊本県南部	0	0	0	0	3	38	51	0	0	1	87	0	0	2
⑥県北部直下	0	0	0	0	3	32	57	0	0	0	88	0	0	2
⑦南海トラフ (地震動:基本ケース)	0	0	2	25	22	31	12	4	0	10	74	1	0	1
⑦南海トラフ (地震動:東側ケース)	0	0	0	14	29	37	12	0	3	9	76	0	1	1
⑦南海トラフ (地震動:西側ケース)	0	0	0	33	22	25	12	5	2	8	73	1	0	3
⑦南海トラフ (地震動:陸側ケース)	0	0	1	25	26	28	12	5	2	7	74	1	0	1
⑧種子島東方沖	0	0	1	36	34	9	12	7	6	2	73	0	1	4
⑨トカラ列島太平洋沖	0	0	0	2	3	83	4	0	1	2	85	0	0	2
⑩奄美群島太平洋沖(北部)	0	0	4	7	1	1	79	2	2	1	83	2	1	2
⑪奄美群島太平洋沖(南部)	0	0	1	4	2	5	80	1	1	2	84	1	1	1

前回調査

算定なし

- 鹿児島県内における文化財(建造物のみ)について、各種ハザードの想定結果を取りまとめた。なお、すべての文化財について、津波浸水エリアには位置していなかった。
- ⑦南海トラフ巨大地震(基本ケース)では、震度6弱に位置する文化財が2か所、⑧種子島東方沖地震では液状化危険度が極めて高いエリアに位置する文化財が7か所、⑩奄美群島太平洋沖(北部)の地震では、土砂災害危険度ランク大のエリアに位置する文化財が2か所あった。

3. その他被害の想定結果 ⑫災害応急対応等

	発災直後～3日後	～1週間後	～1か月後	1か月後～
災害応急対応等	- 鹿児島県庁舎、市町村庁舎等が被災した場合、災害対策本部の設置や運営に支障が生じる。 - 停電や通信障害により、防災行政無線、庁内ネットワーク、情報システム等が使用できなくなり、情報収集・伝達機能が低下する。 - 職員自身の被災や参集困難により、初動対応に必要な人員が不足する。 - 被害状況の把握に時間を要し、住民への避難情報や災害情報の提供に遅れが生じる。 - 消防、警察、自衛隊、医療機関等との情報共有や連携調整が困難となる。 - 離島地域では通信途絶や交通障害により、被害状況の把握が遅れる可能性がある。	- 被災した庁舎では代替施設への移転や応急的な執務環境の整備が進められる。 県、市町村、関係機関による被害情報の集約や応援要請が本格化する。 - 避難所運営、物資供給、ライフライン復旧支援等の業務が集中し、職員の負担が増大する。 - 道路寸断や交通混乱により、現地調査や支援活動に遅れが生じる。 - 離島・半島地域では人的・物的支援の輸送確保が課題となる。 - 応援自治体や国の関係機関との支援体制の構築が進められる。	- 応急対応から復旧対応へと業務の重点が移行する。 - 罹災証明書の発行や各種支援制度の受付業務が増加する。 - 長期避難者への支援や生活再建支援業務が本格化する。 - 職員の長時間勤務や継続的な対応により、人的資源の不足や疲労の蓄積が課題となる。 - 被害が大きい自治体では、通常行政業務の再開が遅れる場合がある。 - 道路や港湾の復旧状況に応じて、離島地域への支援体制が順次改善される。	- 復旧・復興計画の策定や事業実施に向けた体制整備が進められる。 - 被災自治体では職員不足や専門人材不足が顕在化し、継続的な応援職員の派遣が必要となる。 - 災害対応の検証を通じ、業務継続計画(BCP)や受援計画の見直しが進められる。 - 防災拠点となる庁舎や防災情報システムの強靱化が進められる。 - 離島地域を含めた情報通信手段や物資輸送体制の強化が検討される。 - 桜島噴火や豪雨災害等を含む複合災害への対応能力向上が図られる。

3. その他被害の想定結果

⑬堰堤・ため池等の決壊 ⑭地盤地下による長期湛水

	発災直後～3日後	～1週間後	～1か月後	1か月後～
堰堤・ため池等の決壊	- 強い地震動により、老朽化したため池や農業用ダム、小規模堰堤において堤体の損傷や沈下、亀裂等が発生する。 - 堤体の決壊や越流が発生した場合、下流域に急激な浸水が生じ、住宅や農地、道路等が被災する。 - 下流域に居住する住民の避難が遅れた場合、人的被害が発生するおそれがある。 - 流出した土砂や流木により道路閉塞や河川閉塞が発生し、救助・救援活動に支障が生じる。 - 被災箇所周辺では余震による二次的な決壊や斜面崩壊の危険が継続する。 - 農業用水施設の被害により農業生産活動に支障が生じる。	- 決壊したため池周辺では被害状況調査や応急対策工事が実施される。 - 損傷した堤体に対して緊急排水や仮締切等の応急措置が進められる。 - 安全確認が完了するまで周辺住民への避難指示や立入規制が継続される場合がある。 - 道路や農業施設の被害により、地域住民の生活や農業活動に影響が継続する。 - 農業用水の供給停止による営農への影響が顕在化する。 - 山間部では点在する被災施設の調査に時間を要し、被害把握が遅れる場合がある。	- 被災したため池や堰堤の本格復旧工事に向けた測量・設計が進められる。 - 農地の冠水や土砂流入により農業生産への影響が継続する。 - 被災した道路や水路等の復旧が進められるものの、地域によっては利用制限が継続する。 - 豪雨等による二次災害への警戒が必要となる。 - 農業経営への影響が拡大し、営農再開支援が必要となる。	- 大規模な損傷を受けた施設では復旧工事が長期化する場合がある。 - ため池ハザードマップや避難体制の見直しが進められる。 - 老朽ため池や耐震性が不足する施設について、補強・改修事業の必要性が高まる。 - 農業用水の安定供給に向けた代替施設整備や機能強化が検討される。 - 地域における防災意識向上やため池管理体制の強化が図られる。 - シラス地盤地域における堤体・法面对策など、地域特性を踏まえた減災対策が推進される。

	発災直後～3日後	～1週間後	～1か月後	1か月後～
地盤地下による長期湛水	- 沿岸部や河口部の低平地において地盤沈下が発生し、排水不良による湛水が広範囲で発生する。 - 地震後に津波が収束した後も浸水が解消せず、住宅地や事業所等で長期間の湛水が発生する。 - 道路が冠水し、住民の避難や救助活動、緊急車両の通行に支障が生じる。 - 排水ポンプ場や排水施設が被災した場合、浸水の解消が遅れる。 - 浸水区域内では電気、ガス、水道等のライフライン機能の復旧が困難となる。湛水区域からの避難により、避難所の収容需要が増加する。	- 湛水区域では住宅や事業所への立入り制限が継続する。 - 排水作業や応急的な排水設備の設置が進められる。 - 浸水区域への物資輸送や生活支援活動が困難となる。 - 自宅に戻れない住民が増加し、避難生活が長期化する。 - 下水道機能の低下や排水不良により、衛生環境の悪化が懸念される。 - 農地の冠水により農業被害が発生する。	- 排水作業が継続するものの、一部の低地では湛水が残存する。 - 被災住宅の修繕や復旧作業が遅れ、生活再建に支障が生じる。 - 商業・工業施設の操業停止や機能低下が続き、地域経済へ影響が及ぶ。 - 浸水により損傷した道路、上下水道、電気設備等の復旧工事が本格化する。 - 長期避難に伴う住民の身体的・精神的負担が増大する。 - 鹿児島港、志布志港等の港湾機能に影響が生じた場合、物流活動の停滞が長期化する。	- 地盤沈下が大きい地域では恒久的な排水対策や嵩上げ工事が必要となる。 - 防潮堤や排水施設等の再整備が進められる。住宅再建や移転支援など中長期的な生活再建対策が必要となる。 - 沿岸低地における土地利用や防災対策の見直しが進められる。 - 排水施設の耐震化や浸水対策の強化が図られる。 - 地盤沈下と高潮・台風による浸水リスクを考慮した総合的な防災対策が推進される。

3. その他被害の想定結果 ⑮複合災害

	発災直後～3日後	～1週間後	～1か月後	1か月後～
風水害との複合災害	- 地震により損傷した堤防、防潮堤、排水施設等が、その後の台風や集中豪雨により機能低下し、浸水被害が拡大する。 - 地震により緩んだ斜面やシラス地盤において、降雨に伴う土砂災害が発生し、人的被害や建物被害が増加する。 - 道路、橋梁、港湾等の被災により避難や救助活動が困難となる。 - 停電や通信障害が継続する中で風水害が発生し、避難情報の伝達や災害対応に支障が生じる。 - 悪天候によりヘリコプターや船舶による救助活動、物資輸送活動が制約される。	- 地震及び風水害の被災者が重複して発生し、避難所の収容能力不足や避難環境の悪化が懸念される。 - 避難所自体が浸水想定区域や土砂災害警戒区域に位置する場合、避難所の再移転が必要となる。 - 土砂災害による道路寸断が拡大し、孤立集落への支援活動が困難となる。 - ライフライン復旧作業が降雨により遅延する。 - 農地や農業施設への被害が拡大し、農業生産活動への影響が顕在化する。	- 住宅被害、農林水産業被害及びインフラ被害が複合化し、復旧需要が大幅に増加する。 - 復旧工事や災害査定が長期化し、生活再建に遅れが生じる。 - 仮設住宅やみなし仮設住宅の確保が困難となる。 - 被災者の長期避難に伴う身体的・精神的負担が増大する。 - 観光業や商業活動への影響が長期化する。	- 復旧・復興事業が広範囲に及び、人員や資機材の不足が顕在化する。 - 防潮堤、排水施設、法面对策施設等の防災インフラ強化が進められる。 - シラス斜面を有する地域における土砂災害対策の重要性が改めて認識される。 - 地震災害と風水害を同時に想定した避難計画や受援計画の見直しが進められる。
桜島噴火との複合災害	- 地震発生後に桜島等の火山活動が活発化し噴火警戒レベルが上がった場合、避難対象区域が拡大し、避難行動が複雑化する。 - 地震による建物被害や道路被害に加え、降灰や火山礫による被害が発生する。 - 避難道路や緊急輸送道路が地震被害と降灰の双方により機能低下する。 - 降灰により視界不良が発生し、交通事故や物流停滞のリスクが高まる。 - 災害対応機関は地震対応と噴火対応を同時に実施する必要があり、対応能力の低下が懸念される。 - 避難所需要が増加し、避難スペース不足が発生する。 - 大量の降灰が予想され、風下の自治体が避難指示を発令した場合、避難の対象範囲内の避難所は閉鎖される。	- 降灰の継続により道路清掃や施設管理業務が増加する。 - 火山灰によって電力設備や通信設備に障害が発生し、ライフラインの復旧が遅延する。 - 空港や港湾施設の機能低下により県外からの支援受入れに支障が生じる。 - 医療機関では呼吸器疾患や眼症状等への対応需要が増加する。 - 避難者の増加により避難所運営負担が増大する。	- 降灰処理や火山活動への警戒が継続し、復旧工事に遅れが生じる。 - 農作物への降灰被害や畜産業への影響が顕在化する。 - 観光地や観光施設の利用低下により観光産業への影響が拡大する。 - 火山活動の継続に伴い、避難指示区域や立入規制区域が維持される場合がある。 - 地震被害と火山災害の双方に対する生活再建支援が必要となる。 - 降灰が止み、市街地の避難指示が解除されても、降灰を除去するまで都市機能は低下したままとなる。	- 復旧・復興事業と降灰対策を並行して進める必要が生じる。 - 桜島周辺地域では住民の生活再建や地域経済の回復に長期間を要する可能性がある。 - 火山灰処理施設や備蓄体制、広域避難体制の強化が図られる。 - 地震災害と火山災害を一体的に想定した防災計画の見直しが進められる。 - 行政機関や防災関係機関において複合災害対応能力の向上が図られる。
山の斜面への降灰が著しい場合には、降雨に伴う土石流の発生により、建物や道路等に被害が生じる。				

3. その他被害の想定結果

①⑥漁船・船舶・水産関連施設 ①⑦治安

	発災直後～3日後	～1週間後	～1か月後	1か月後～
漁船・一般船舶	- 津波により漁船、作業船、旅客船等が流失、転覆、沈没又は座礁する。 - 船舶同士や岸壁等への衝突により船体損傷が発生する。 - 漂流船舶等が建築物や道路施設へ衝突し二次被害を発生させる。 - 船舶の流出により航路障害や救助活動の支障が生じる。	- 沈没船や漂流物の回収及び航路啓開作業が実施される。 - 離島航路や漁業活動の停止により人流・物流機能が低下する。	- 漁船の修理や代替船舶の確保が進められる。 - 出漁制限や操業停止による収入減少が顕在化する。	- 漁船の更新等が進められる。 - 漁船避難ルールや港湾防災体制の見直しが進められる。
漁港・養殖施設	- 防波堤、岸壁、荷さばき施設等が被災し、漁港機能が低下する。 - 養殖いけすや係留施設が流失し、養殖魚介類が逸失する。 - 漂流物による港内閉塞や航行障害が発生する。	- 漁港施設の被害調査や応急復旧が進められる。 - 養殖業において生産施設の損傷や魚介類流失による被害が明らかとなる。	- 漁港利用制限が継続し、水揚げ機能の低下が続く。 - ブリ、カンパチ、マダイ等の養殖業において生産量低下が生じる。 - 漁業協同組合等による経営再建支援が必要となる。	- 漁港施設及び養殖施設の本格復旧が進められる。 - 耐震・耐津波対策や施設の強靱化が進められる。
水産加工・流通	- 水産加工場や冷凍・冷蔵施設が浸水し、設備被害が発生する。 - 停電により保管中の水産物の品質が低下する。 - 港湾機能の停止により水産物流通が停滞する。	- 冷蔵・冷凍機能の停止に伴い、水産物の廃棄が発生する。 - 市場機能の低下により出荷や流通に支障が生じる。	- 水産加工業や流通事業者の操業停止により地域経済へ影響が及ぶ。 - 離島を含む水産物流通ネットワークの回復に時間を要する。	- 水産加工施設の復旧が進められる。 - 非常用電源やBCPの整備など事業継続対策が強化される。

	発災直後～3日後	～1週間後	～1か月後	1か月後～
治安	- 地震や津波により避難した住宅、店舗、事業所等を狙った窃盗や侵入被害が発生するおそれがある。 - 停電や通信障害、防犯設備の機能停止等により、防犯機能が低下する。 - SNSやインターネット上では、不確かな被害情報や避難情報が拡散され、住民の混乱を招く可能性がある。 - 警察をはじめとする関係機関は災害対応を優先するため、防犯活動に制約が生じる場合がある。	- 避難生活の長期化に伴い、留守宅や空き店舗等への侵入被害が発生するおそれがある。 「住宅の点検」「災害支援」「義援金募集」等を装った悪質商法や詐欺行為が発生する可能性がある。 - 物資不足やライフライン復旧状況に関する誤情報が拡散し、住民の不安や混乱が増大するおそれがある。 - 自治体や警察による防犯パトロールや注意喚起活動が強化される。	- 住宅修繕や復旧工事に関連する契約トラブルや悪質商法が発生する可能性がある。 - 被災者の生活再建に乗じた詐欺行為への警戒が必要となる。 - 被災地域に関する風評や誤情報が流布され、観光業や農林水産業等への影響が生じる場合がある。 - 地域住民や自主防犯団体による見守り活動が継続される。	- 地域コミュニティの再建とともに治安は徐々に安定する。 - 災害時の防犯対策、情報発信体制及び相談体制の見直しが進められる。 - 鹿児島県では観光地や特産品に関する風評被害への対応が継続的な課題となる場合がある。 - 災害対応の経験を踏まえ、警察、自治体及び地域住民が連携した防犯体制の強化が図られる。

3. その他被害の想定結果 ⑱観光

※ -:わずか(0は完全に0)
 ※ 被害想定の数値は概数であるため、ある程度幅をもって見る必要がある。また、四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

その他被害:観光客被害の一覧

今回調査

被災ケース		死者	負傷者
想定地震等	季節・時刻		
①鹿児島湾直下	冬深夜	10	110
	夏12時	10	80
	冬18時	10	90
②県西部直下	冬深夜	20	110
	夏12時	20	80
	冬18時	20	80
③甕島列島東方沖	冬深夜	10	10
	夏12時	10	10
	冬18時	10	10
④県北西部直下	冬深夜	-	30
	夏12時	-	20
	冬18時	-	20
⑤熊本県南部	冬深夜	-	20
	夏12時	-	10
	冬18時	10	10
⑥県北部直下	冬深夜	-	-
	夏12時	-	-
	冬18時	-	-
⑦南海トラフ (地震動:基本ケース、津波:CASE11)	冬深夜	30	40
	夏12時	30	40
	冬18時	30	40
⑦南海トラフ (地震動:東側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	30	30
	夏12時	30	30
	冬18時	30	30
⑦南海トラフ (地震動:西側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	30	60
	夏12時	30	50
	冬18時	30	50
⑦南海トラフ (地震動:陸側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	40	70
	夏12時	30	60
	冬18時	30	60
⑧種子島東方沖	冬深夜	10	60
	夏12時	10	50
	冬18時	10	50
⑨トカラ列島太平洋沖	冬深夜	10	10
	夏12時	10	10
	冬18時	10	10
⑩奄美群島太平洋沖(北部)	冬深夜	20	20
	夏12時	10	10
	冬18時	10	10
⑪奄美群島太平洋沖(南部)	冬深夜	-	10
	夏12時	-	10
	冬18時	-	10

前回調査



- 死傷者数の内訳として観光客の被害が最大となるのは①鹿児島湾直下地震であった。
- ①鹿児島湾直下地震においては、観光客数の多い鹿児島市が被害を受けるため、被害最大となる見込みである。
- 鹿児島県においては国内の観光客数は8月が最大であり、8～11月ごろの観光客数が多い傾向にある。一方、国外の観光客数は11月が最大であり、10～12月ごろの観光客数が多い傾向にある。これらの期間の特に休日においては、観光客における死傷者が多くなると考えられる。

3. その他被害の想定結果 ⑬農畜産業

	発災直後～3日後	～1週間後	～1か月後	1か月後～
農業	- 地震動や津波により農地、農業用ハウス、集出荷施設、農業用倉庫等が被災し、営農活動に支障が生じる。 - ため池、農業用ダム、用排水路等の損傷により農業用水の供給が停止し、一部地域では作物の管理が困難となる。 - 津波浸水地域では農地への海水流入や土砂堆積が発生し、農業生産基盤に被害が生じる。 - 鹿児島県の主要農産物である茶やさつまいも等の産地では、農地や生産施設の被災により生産活動が停滞する。	- 農地や農業用施設の被害調査が進められる一方、農業機械や資材の不足により復旧作業が遅れる場合がある。 - 道路被害や物流機能の低下により、肥料、農薬、資材等の供給に支障が生じる。 - 茶や園芸作物の産地では収穫や出荷作業の停滞が発生し、農業所得への影響が生じる。 - 離島地域では港湾機能の低下により農産物輸送が停滞し、出荷に支障が生じる。	- 農地、農業用施設及び農業用水施設の復旧作業が本格化する。 - 農産物の収穫量減少や出荷遅延が発生し、農業経営への影響が顕在化する。 - 津波浸水農地では除塩や農地復旧作業が必要となり、営農再開に時間を要する。 - 農産物流通機能の低下により、地域経済への影響が継続する。	- 農地や農業用施設の本格復旧が進められる。 - 被災農業者への営農再開支援や経営再建支援が実施される。 - ため池や農業用水施設の耐震化・老朽化対策が進められる。 - 地震災害を踏まえた農業分野の事業継続対策や防災体制の強化が図られる。
畜産業	- 地震動により畜舎、飼料倉庫、堆肥舎等が被災し、家畜の飼養環境が悪化する。 - 停電や断水により換気設備、給水設備、給餌設備等が停止し、家畜の健康状態に影響が生じる。 - 食肉処理施設、乳業施設及び流通施設の機能低下により出荷調整が必要となる。 - 道路被害や港湾被害により飼料輸送が停滞し、一部地域では飼料不足が懸念される。	- 畜舎被害や設備故障への応急対応が進められる。 - 志布志港、鹿児島港等の物流機能低下により配合飼料の供給が停滞する可能性がある。 - 停電の長期化により畜舎内環境の悪化や家畜の生産性低下が発生する。 - 種子島、屋久島、奄美群島等の離島地域では、飼料や畜産資材の輸送に支障が生じる。	- 家畜の出荷遅延や生産性低下により畜産経営への影響が顕在化する。 - 食肉処理施設、乳業施設及び流通施設の機能低下により出荷調整が必要となる。 - 飼料供給の停滞や施設被害に起因する経済的損失が拡大する。 - 被災した畜産施設の復旧工事が本格化する。	- 畜舎や関連施設の本格復旧が進められる。 - 被災した畜産経営体への再建支援や経営安定対策が実施される。 - 非常用電源や飼料備蓄体制の強化など、畜産業における事業継続対策が推進される。 - 肉用牛、豚、ブロイラー等の大規模産地において、災害時の飼養管理体制や広域支援体制の見直しが進められる。

※茶畑や畜舎等の位置情報データの収集を検討中

4. 経済被害(直接経済被害)の想定結果

※ -:わずか(0は完全に0)
※ 被害想定の数値は概数であるため、ある程度幅をもって見る必要がある。また、四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

経済被害:直接経済被害の一覧

今回調査

前回調査

(単位:億円)

被災ケース			建物	資産	ライフライン					交通					土地	災害 廃棄物	合計
想定地震等	季節・時刻	上水道			下水道	電力	通信 (電話)	ガス	道路	鉄道	港湾 ・漁港	その他 の公共 土木 施設	農地				
①鹿児島湾直下	冬深夜	15,300	1,400	80	330	-	-	10	200	50	1,600	900	510	1,000	21,500		
	夏12時	15,400	1,400	80	330	-	-	10	200	50	1,600	900	510	1,000	21,500		
	冬18時	15,500	1,500	80	330	-	10	10	200	50	1,600	900	510	1,000	21,600		
	冬深夜	14,400	1,500	30	230	10	10	10	170	40	790	510	510	1,100	19,400		
②県西部直下	夏12時	14,400	1,500	30	230	10	10	10	170	40	790	510	510	1,100	19,400		
	冬18時	14,500	1,500	30	230	10	10	10	170	40	790	510	510	1,200	19,500		
	冬深夜	2,700	340	-	30	-	-	10	50	10	1,100	480	540	570	5,800		
③甕島列島東方沖	夏12時	2,700	340	-	30	-	-	10	50	10	1,100	480	540	570	5,800		
	冬18時	2,700	340	-	30	-	-	10	50	10	1,100	480	540	570	5,800		
	冬深夜	5,000	660	10	100	-	-	-	80	20	1,300	610	270	8,000			
④県北西部直下	夏12時	5,000	660	10	100	-	-	-	80	20	1,300	610	270	8,000			
	冬18時	5,000	660	10	100	-	-	-	80	20	1,300	610	270	8,100			
	冬深夜	1,700	220	-	40	-	-	10	60	10	860	400	490	440	4,300		
⑤熊本県南部	夏12時	1,700	220	-	40	-	-	10	60	10	860	400	490	440	4,300		
	冬18時	1,700	220	-	40	-	-	10	60	10	860	400	490	440	4,300		
	冬深夜	220	30	-	-	-	-	0	10	-	10	10	10	290			
⑥県北部直下	夏12時	220	30	-	-	-	-	0	10	-	10	10	10	290			
	冬18時	220	30	-	-	-	-	0	10	-	10	10	10	290			
	冬深夜	11,100	1,300	60	180	-	10	10	290	50	810	550	950	1,400	16,800		
⑦南海トラフ (地震動:基本ケース、津波:CASE5)	夏12時	11,100	1,300	60	180	-	10	10	290	50	810	550	950	1,400	16,800		
	冬18時	11,200	1,300	60	180	-	10	10	290	50	810	550	950	1,400	16,800		
	冬深夜	8,600	1,000	40	140	-	10	10	230	30	420	340	950	1,200	13,000		
⑦南海トラフ (地震動:東側ケース、津波:CASE5)	夏12時	8,600	1,000	40	140	-	10	10	230	30	420	340	950	1,200	13,000		
	冬18時	8,600	1,000	40	140	-	10	10	230	30	420	340	950	1,200	13,000		
	冬深夜	12,700	1,500	60	220	-	10	10	340	60	1,000	670	950	1,500	19,000		
⑦南海トラフ (地震動:西側ケース、津波:CASE5)	夏12時	12,700	1,500	60	220	-	10	10	340	60	1,000	670	950	1,500	19,000		
	冬18時	12,700	1,500	60	220	-	10	10	340	60	1,000	670	950	1,500	19,100		
	冬深夜	8,600	1,000	40	140	-	10	10	230	30	420	340	950	1,200	13,000		
⑦南海トラフ (地震動:陸側ケース、津波:CASE5)	夏12時	8,600	1,000	40	140	-	10	10	230	30	420	340	950	1,200	13,000		
	冬18時	8,600	1,000	40	140	-	10	10	230	30	420	340	950	1,200	13,000		
	冬深夜	11,800	1,400	60	180	-	10	10	290	50	1,000	630	970	1,500	17,900		
⑦南海トラフ (地震動:基本ケース、津波:CASE11)	夏12時	11,800	1,400	60	180	-	10	10	290	50	1,000	630	970	1,500	17,900		
	冬18時	11,800	1,400	60	180	-	10	10	290	50	1,000	630	970	1,500	17,900		
	冬深夜	13,300	1,600	60	220	-	10	10	340	60	520	460	970	1,400	18,900		
⑦南海トラフ (地震動:東側ケース、津波:CASE11)	夏12時	13,300	1,600	60	220	-	10	10	340	60	520	460	970	1,400	18,900		
	冬18時	13,400	1,600	60	220	-	10	10	340	60	520	460	970	1,400	19,000		
	冬深夜	9,300	1,100	40	140	-	10	10	240	30	720	470	970	1,300	14,300		
⑦南海トラフ (地震動:西側ケース、津波:CASE11)	夏12時	9,300	1,100	40	140	-	10	10	240	30	720	470	970	1,300	14,300		
	冬18時	9,300	1,100	40	140	-	10	10	240	30	720	470	970	1,300	14,300		
	冬深夜	14,400	1,700	80	210	-	10	10	360	60	1,000	680	970	1,600	21,200		
⑦南海トラフ (地震動:陸側ケース、津波:CASE11)	夏12時	14,400	1,700	80	210	-	10	10	360	60	1,000	680	970	1,600	21,200		
	冬18時	14,500	1,700	80	210	-	10	10	360	60	1,000	680	970	1,600	21,200		
	冬深夜	14,800	1,800	40	210	-	-	10	360	50	1,200	760	660	1,200	21,100		
⑧種子島東方沖	夏12時	14,800	1,800	40	210	-	-	10	360	50	1,200	760	660	1,200	21,100		
	冬18時	14,800	1,800	40	210	-	-	10	360	50	1,200	760	660	1,200	21,100		
	冬深夜	2,000	210	-	10	-	-	10	50	-	420	200	640	700	4,200		
⑨トカラ列島太平洋沖	夏12時	2,000	210	-	10	-	-	10	50	-	420	200	640	700	4,200		
	冬18時	2,000	210	-	10	-	-	10	50	-	420	200	640	700	4,200		
	冬深夜	4,000	360	10	40	-	10	10	50	-	1,200	530	620	800	7,600		
⑩奄美群島太平洋沖(北部)	夏12時	4,000	360	10	40	-	10	10	50	-	1,200	530	620	800	7,600		
	冬18時	4,000	370	10	40	-	10	10	50	-	1,200	530	620	800	7,700		
	冬深夜	2,400	200	-	60	-	-	10	40	-	530	270	560	630	4,700		
⑪奄美群島太平洋沖(南部)	夏12時	2,400	200	-	60	-	-	10	40	-	530	270	560	630	4,700		
	冬18時	2,400	200	-	60	-	-	10	40	-	530	270	560	630	4,700		

被災ケース		建物	資産	ライフライン					交通				土地	災害廃棄物	合計
想定地震	季節・時刻			上水道	下水道	電力	通信(電話)	ガス	道路	鉄道	港湾・漁港	その他の公共土木施設	農地		
①鹿児島湾直下	冬深夜	7,500	1,300	40	310	-	-	-	120	40	1,700	900	180	540	12,600
	夏12時	7,500	1,300	40	310	-	-	-						540	12,600
	冬18時	7,800	1,400	40	310	10	10	-						600	13,200
②県西部直下	冬深夜	5,700	1,400	10	120	10	10	-	80	30	470	280	180	450	8,700
	夏12時	5,800	1,400	10	120	20	10	-						450	8,900
	冬18時	5,900	1,500	10	120	30	20	-						470	9,100
③甕島列島東方沖	冬深夜	940	190	-	10	-	-	0	20	10	360	170	210	350	2,300
	夏12時	940	190	-	10	-	-	0						350	2,300
	冬18時	940	190	-	10	-	-	0						350	2,300
④県北西部直下	冬深夜	1,600	430	10	60	-	-	-	30	20	320	170		40	2,700
	夏12時	1,600	430	10	60	-	-	-						40	2,700
	冬18時	1,700	440	10	60	10	-	-						50	2,800
⑤熊本県南部	冬深夜	680	180	-	20	-	-	-	20	10	390	180	180	250	1,900
	夏12時	680	180	-	20	-	-	-						250	1,900
	冬18時	680	180	-	20	-	-	-						250	1,900
⑥県北部直下	冬深夜	70	20	-	0	-	-	0	-	-	-	-		-	100
	夏12時	70	20	-	0	-	-	0						-	100
	冬18時	70	20	-	0	-	-	0						-	100
⑦南海トラフ (地震動:基本ケース、津波:CASE5)	冬深夜	7,300	1,500	20	60	10	10	-	100	20	800	410	410	920	11,600
	夏12時	7,300	1,500	20	60	10	10	-						920	11,600
	冬18時	7,300	1,500	20	60	10	10	-						920	11,600
⑦南海トラフ (地震動:東側ケース、津波:CASE5)	冬深夜	4,600	1,000	10	20	10	10	-	60	10	710	340	410	840	8,000
	夏12時	4,600	1,000	10	20	10	10	-						840	8,000
	冬18時	4,600	1,000	10	20	10	10	-						840	8,000
⑦南海トラフ (地震動:西側ケース、津波:CASE5)	冬深夜	8,900	1,800	20	90	10	10	-	120	30	860	450	410	990	13,800
	夏12時	8,900	1,900	20	90	10	10	-						990	13,800
	冬18時	8,900	1,900	20	90	10	10	-						990	13,800
⑦南海トラフ (地震動:陸側ケース、津波:CASE5)	冬深夜	8,500	1,800	20	80	10	10	-	130	30	780	420	410	950	13,100
	夏12時	8,500	1,800	20	80	10	10	-						950	13,100
	冬18時	8,500	1,800	20	80	10	10	-						950	13,100
⑦南海トラフ (地震動:基本ケース、津波:CASE11)	冬深夜	7,700	1,600	20	60	20	10	-	110	20	960	480	430	980	12,400
	夏12時	7,700	1,600	20	60	20	10	-						980	12,400
	冬18時	7,700	1,600	20	60	20	10	-						980	12,400
⑦南海トラフ (地震動:東側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	5,000	1,100	10	20	20	10	-	60	10	880	410	430	900	8,900
	夏12時	5,000	1,100	10	20	20	10	-						900	8,900
	冬18時	5,000	1,100	10	20	20	10	-						900	8,900
⑦南海トラフ (地震動:西側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	9,400	1,900	20	90	20	10	-	120	30	1,000	530	430	1,000	14,600
	夏12時	9,400	2,000	20	90	20	10	-						1,000	14,600
	冬18時	9,400	2,000	20	90	20	10	-						1,000	14,600
⑦南海トラフ (地震動:陸側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	8,900	1,900	20	80	20	10	-	130	30	940	490	430	1,000	14,000
	夏12時	8,900	1,900	20	80	20	10	-						1,000	14,000
	冬18時	8,900	1,900	20	80	20	10	-						1,000	14,000
⑧種子島東方沖	冬深夜	9,600	2,200	20	130	10	-	-	180	40	740	450	240	680	14,200
	夏12時	9,600	2,200	20	130	10	-	-						680	14,200
	冬18時	9,600	2,200	20	130	10	-	-						680	14,300
⑨トカラ列島太平洋沖	冬深夜	600	120	-	-	-	-	-	20	-	230	110	220	470	1,800
	夏12時	600	120	-	-	-	-	-						470	1,800
	冬18時	600	120	-	-	-	-	-						470	1,800
⑩奄美群島太平洋沖(北部)	冬深夜	1,600	350	10	30	10	10	-	30	-	810	370	260	490	3,900
	夏12時	1,600	350	10	30	10	10	-						490	4,000
	冬18時	1,700	370	10	30	20	10	-						490	4,100
⑪奄美群島太平洋沖(南部)	冬深夜	580	100	-	10	10	-	-	20	-	360	170	240	410	1,900
	夏12時	580	100	-	10	10	-	-						410	1,900
	冬18時	600	110	-	10	10	10	-						410	1,900